




子どもは親の背中を見て育つ

オランダのアムステルダム大学のヴァン・デン・ブッテ教授が、どのようなCMを作成すれば好意をもってもらえるか、チョコレートのCMを作成して実験をしました。

その1 「このチョコレートを、みんなが食べてるよ」と、多くの人が食べていることを訴えるCM	→ 好意的な反応 8%
その2 「このチョコレートは、とてもおいしいよ」と、おいしさを訴えるCM	→ 好意的な反応 19%
その3 おいしそうに食べている場面を見せるCM	→ 好意的な反応 42%



他の人がおいしそうに食べていれば、それを見た人も食べたくなります。言葉で説明するよりも、行動や態度を見せるほうが、より分かりやすく、訴える内容がよく伝わるとい結果です。

…ビールのCMで、芸能人がビールを飲んで「クーッ」とか「プハーッ」と、おいしそうに飲むCMをよく見ます。私などは「うまそう」と、すぐに引っ掛かって買ってしまいますが、これはこの効果をねらったものでしょう。

…以前、青汁のCMで、芸能人が青汁を飲み干して「まずい！もう一杯！」というCMがありました。さらにウラをかいて、印象に残る効果をねらったCMだったと思います。ご存知でしょうか。30年も前のCMです…。



このことを親子の関係で考えてみますと…、
 親が余計な口（語弊があります）を出さなくても、行動や態度で示すことが、子どもに伝えたり、感じさせたりするには有効であるということになります。「子は親の背中を見て育つ」と言われます。子どもは親の行動や態度に影響を受けるという言葉です。親がどんなに子どもに「勉強しろ！」と言ったところで、その親がゴロゴロしてテレビばかり見ていたのでは、子どもが言うことを聞かないのは当然といえば当然です。子どもに望ましい行動や態度をとらせたいのであれば、まず、親がその行動や態度を見せる必要があります。その姿を見て、子どもは、親と同じことをしてみようと思うのです。統計では、読書が好きではない子どもは、その子の親も家で読書をしないという結果が出ています。…**自戒を込めています。**



子どもが職を継がず、親の代でその職が途絶えてしまうという話を聞きます。様々な理由があると思いますが、その原因の一つには、親が家庭で仕事の愚痴を言う、楽しそうにしていない姿を子どもに見せている、などのことが、子どもの心に影響を与えてしまっていることもあるようです。

子どもに限りません。言葉で相手に伝えようとしても、矛盾するような行動をしていたら、相手にはそれが伝わりません。反感を買ってしまう場合もあります。「言行一致」と言われます。とても大切なことです。

母ちゃんとラーメン

今日、オレは珍しく母ちゃんを外食に誘った。

行き先は、昔からよく行く馴染みのラーメン屋だった。

オレは味噌ラーメンの大盛り、母ちゃんは味噌ラーメンの並盛りを頼んだ。

母ちゃんは

「昔からここ美味しいのよね。」

と、柄にもなく顔に皺を寄せて笑っていた。

ラーメンができ上がると、オレも母ちゃんも夢中で麺をすすっていた。

あまりにも母ちゃんがニコニコしながら食べるものだから、オレもつられて笑っちゃったよ。

しばらく経って、ラーメンを食い終わったオレは、ふと母ちゃんの方を見た。

ラーメンの器に浮かぶチャーシューが一枚、二枚、三枚…。

そのチャーシューをめくると、麺がまだたくさん残っていた。

母ちゃんはオレの方を申し訳なさそうに見て、

「ごめんね。母ちゃん、もう歳だから。ごめんね。」

と繰り返していた。

「んなもんしゃーねーべ。」

と言うと、オレは母ちゃんの残したラーメンをすすった。

そういやガキのころ、よく無理して大盛りを頼んで、結局食べ切れなくて母ちゃんに食ってもらってたっけ。

いつの間にか立場も逆転。

あんなに若かった母ちゃんの顔も今じゃ皺だらけで、背丈も頭一個分違う。

その皺の数ほど、今までさんざん迷惑を掛けたんだらうなって思うと、

悔しさと不甲斐なさで涙が出てくる。

母ちゃん、こんなオレを今まで育ててくれてありがとう。

オレ、立派な社会人になるわ。



「心温まる話」より

書いている途中に母のことが浮かんできました。保護者の皆さんも、子どもと自身の関係よりも、自身と親御さんとのことが浮かぶのではないかと思います。親の背中を見て育つ子どもですが、子どもと親はいずれどこかで逆転をします。高学年の子はすでに、食べる量や身長などで親を追い越しているかもしれません。

就職をし、結婚をし、子どもが生まれ…、世の常ではありますが、やがては、収入面や家庭を支えるという面

でも、親子の立場が逆転していきます。そして、あるときふっと、親に「老い」を感じ、感謝とともに、一抹の寂しさを感じる時もあります…。しかし、「子を見ること親に如かず」とも言われます。私の母にいわせると、こんな50代後半の息子でも（父はすでに他界しました）心配は尽きないようです。

